

# 環境会計

荒川化学グループでは、総合的効果対比型環境会計をツールとして、環境にかかるコスト、効果、物量を把握、管理していきます。2011年度は、環境投資が増加しました。

## 2011年度実績集計結果

(1) 2011年度の投資額は3億88百万円で、2010年度より大きく増加しました。主な環境投資としては、富士工場と小名浜工場で新プラント建設による脱臭設備などの新設、大阪工場でボイラ燃料のガス化や廃棄物焼却炉の保全、水島工場で炭化水素ガスの燃焼処理設備の新設や変圧器の更新などがありました。

(2) 環境保全コストの費用は11億24百万円で、2010年度と同レベルです。金額順では、環境配慮製品の研究開発

費用、公害防止設備に関わる費用、産業廃棄物の削減・減量・リサイクルに関わる費用などです。

(3) 環境保全効果は、環境保全活動(P13~P16)のページに掲載しています。CO<sub>2</sub>、環境負荷物質排出量は前年並みでした。廃棄物のリサイクルで、富士工場が2011年度も成果を上げて埋立量が減少しています。

(4) 経済効果は、廃棄物処理費の削減は後退しましたが、省エネルギーによる費用削減が大きく前進しました。その結果、全体では前年より改善しています。

### 環境保全コスト

(単位：百万円)

分類	主な取り組みの内容	2009年度		2010年度		2011年度		関連頁
		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額	
事業エリア内コスト		69	573	131	597	388	627	
①公害防止コスト	公害防止設備の導入・維持管理	57	294	106	279	352	306	P.13,14
②地球環境保全コスト	省エネ型設備・機器の導入	5	36	19	67	12	51	P.13,14
③資源循環コスト	廃棄物減量化・リサイクル、外部委託処理	7	243	6	251	25	270	P.15
上下流コスト	包装容器のリサイクル	19	103	0	125	0	109	—
管理活動コスト	環境マネジメントシステムの維持	0	47	6	45	0	47	P.10
研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発	0	217	0	332	0	323	P.5,6
社会活動コスト	地域における環境保全活動	0	21	16	23	0	15	P.26
環境損傷コスト	大気汚染負荷量賦課金	0	3	0	5	0	3	—
合計		88	964	153	1,127	388	1,124	—

(単位：百万円)

2011年度 投資額の総額	1,478
2011年度 研究開発費の総額	2,869

### 環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)

(単位：百万円)

効果の内容	金額		
	2009年度	2010年度	2011年度
廃棄物のリサイクルによる事業収入	32.3	45.7	41.1
省エネルギーによるエネルギー費の削減	29.4	-13.5	118.5
省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	-3.4	25.0	-0.6
合計	58.3	57.2	159.0

環境保全の効果(物量効果)は、環境保全活動(P13-16)のページに記載しています。

### 集計について

- 集計期間：2011年4月1日から2012年3月31日まで
- 集計範囲：荒川化学工業株式会社、ペルノックス株式会社、高圧化学工業株式会社
- 集計参考：環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考にしました。
- 集計の考え方
  - ・減価償却費は財務会計上の金額。
  - ・投資金額は集計期間の検収ベース金額。
  - ・環境保全活動以外の内容を含んでいる投資・費用は、環境保全に関わる割合を適切に按分して算出。
  - ・研究開発コストは、個々の研究テーマ毎に環境保全係数を決め、環境配慮型製品の研究開発に費やした研究開発時間をベースに算出。
  - ・効果は物量および金額で集計しました。「みなし効果」「偶発的效果」は算定していません。